

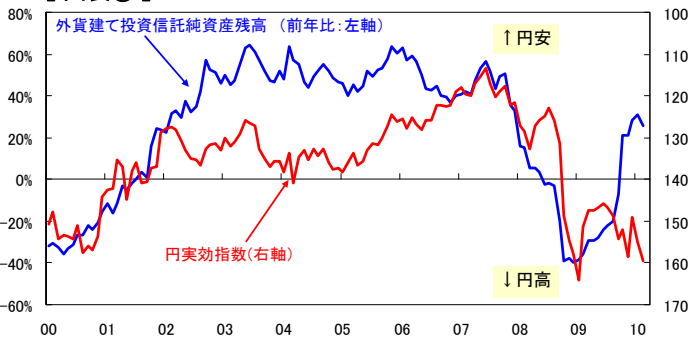
日本の個人マネーと主要エマージング諸国通貨

- ✓ 日本の個人マネーの対外証券投資が活発化するための条件の一つは、家計の景況感改善が挙げられる。
- ✓ 家計の景況感は緩やかに改善しており、これに連れ、投資家のリスク許容度が高まった場合は、エマージング諸国に注目が集まろう。

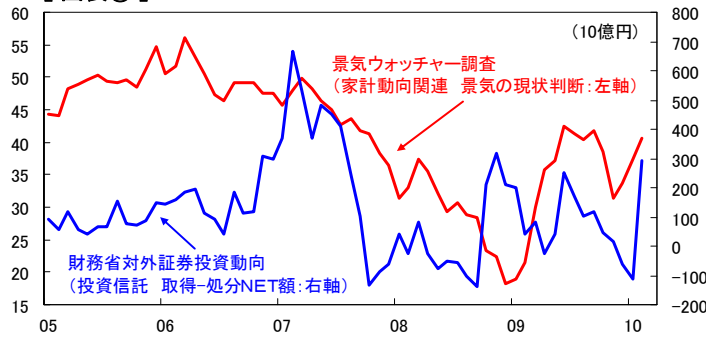
投資信託協会のデータによると、2月末の外貨建て投資信託の純資産残高は2700億円弱となっており、金融危機さなかの約1年前と比較すると+32%の回復となりました。ただ、月間での投資信託を通じた個人マネーの海外への流出額は、ここ10年ほどのピークの約10分の1以下の規模しかないので、円安の原動力にはなっていない模様です(図表①参照)。

日本の個人マネーが投資信託を通じて海外に流れ、円安の原動力になる条件の一つは家計の景況感が改善することです。過去、家計の景況感(景気ウォッチャー調査)と投資信託を通じた対外証券投資の動向は連動性高く推移してきました。足元、家計の景況感は、改善傾向にあり、これが個人マネーの海外投資を促すのか要注目です(図表②参照)。

【図表①】



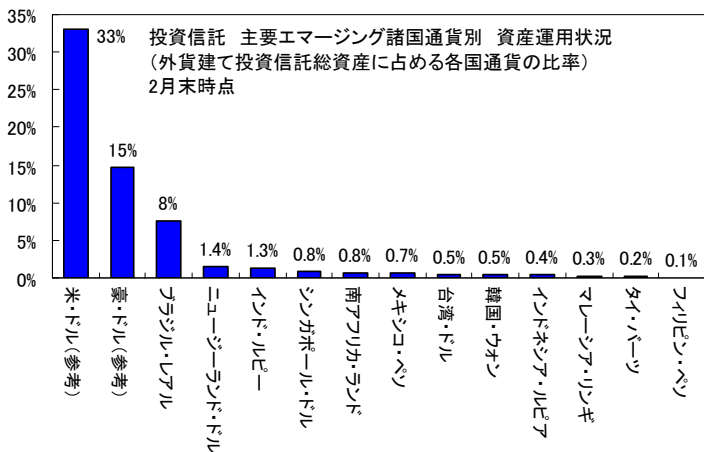
【図表②】



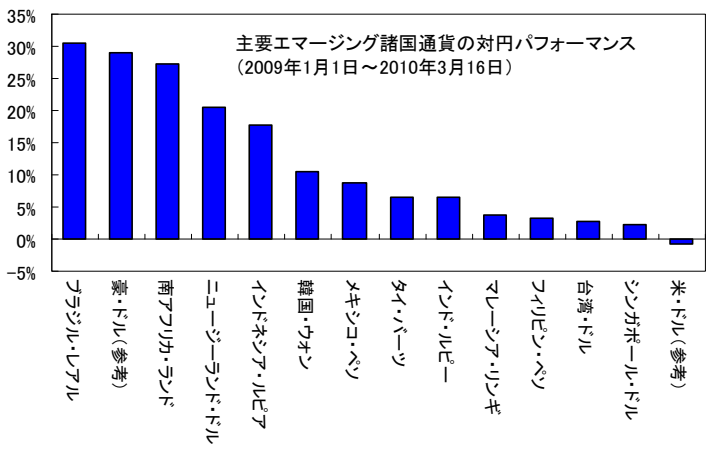
日本の個人投資家は、投資信託を通じて、どの国・通貨への投資を嗜好しているのでしょうか？結論を先に言うと、米・ドルや豪・ドルへの偏重が顕著です。米・ドルに関しては、機軸通貨としての側面や流通性の観点からすれば、ある意味整合的ですが。また豪・ドルは高金利選好の表れなのでしょう。エマージング諸国の中ではブラジル・レアルが選好されています。これには、主要エマージング諸国通貨の対円パフォーマンスの高さも反映されているのでしょうか(図表③④参照)。

ブラジル・レアルは主要エマージング諸国通貨の中で、先ほどの対円パフォーマンスの高さや投資信託を通じた投資割合の高さから、ある意味整合的な通貨といえます。これに対して、通貨パフォーマンスが10%を超えるような高位にある一方、投資信託を通じた該当通貨への投資割合が低位な国の通貨、例えば、ニュージーランド・ドル、南アフリカ・ランド、インドネシア・ルピア、韓国・ウォンなどは、前述のように日本の家計が改善する中で個人投資家のリスク許容度が高まった場合、投資信託を通じた投資割合が増加する可能性がある通貨群として要注目です。

【図表③】



【図表④】



ご留意いただきたい事項

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。
- 投資信託は値動きのある資産を投資対象としており、基準価額は変動しますので、これにより投資元本を割込むおそれがあります。ファンドによって投資対象資産や投資規制、投資対象国などが異なるため、リスクの内容や性質が異なります。また、投資信託のお申込時、保有期間中、およびご換金時には費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料に記載されている各指数、統計資料等の著作権・知的財産権その他一切の権利は、各算出先、公表元に帰属します。
- 当資料に記載されている内容は発行日現在のものであり、今後予告なく変更される場合があります。投資に関する最終決定はお客様ご自身でご判断ください。
- 当資料のグラフ・数値等は過去の実績であり、将来の市場環境の変動や投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。



ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第369号
加入協会:(社)投資信託協会、(社)日本証券投資顧問業協会

